



# 営農NEWS



## バレイショの疫病、アブラムシ類などの発生に 注意し、防除を励行しましょう

今年のバレイショ栽培では、現在のところ、多くは順調な生育で推移しています。これから着蕾から開花期に入っていきますが、今後は疫病等が発生しやすくなります。なお、気象の1ヵ月予報（5月5日発表）によりますと、今後、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少なく、降水量は平年並または多い確率 40%、日照時間は平年並または少ない確率 40%と、疫病が発生しやすい条件になる恐れがあります。このため、今後の気象変動に十分注意して、降雨日が多い場合には予防散布や発生初期の防除を必ず実施してください。

また、バレイショに寄生するアブラムシ類は、直接的な吸汁被害を生じる他にウイルスを媒介してモザイク病を発生させますので、アブラムシ類の発生初期からの防除が必要になります。なお、モザイク病に感染した株は回復の見込みが無く、他への伝染源となりますので、早急に抜き取り、適切に処分してください。

これら疫病、アブラムシ類などは被害の進展が早急なため、圃場をよく観察して早期発見に努め、必要に応じて適切な防除に努めてください。

### <防除のポイント>

#### 1. 疫病

- 1) 開花期以降になると発病しやすくなるので、開花はじめから薬剤防除を実施してください。天候が不安定で、降雨が続くような場合には、定期的な薬剤散布に努めてください。疫病は多発生してからでは防除が困難となりますので、予防散布または発生初期の防除が重要になります。
- 2) 窒素肥料の効きすぎや軟弱徒長の株は発病しやすいので、特に注意が必要です。
- 3) 薬剤散布は十分量（200ℓ/10a）の薬液で、葉裏や株元にもよくかかるよう丁寧に行うことが特に重要です。
- 4) 収穫期に降雨があると、イモに病原菌が流れて感染し、表面にやや陥没した褐色病斑が形成されて商品価値を失う場合があります。収穫後の被害を抑制するため、収穫は晴天の日を選び、乾いた後に貯蔵しましょう。

#### 2. アブラムシ類、モザイク病

- 1) 圃場周辺の雑草は、アブラムシ類の飛来源やウイルスの保毒源となりますので、常に除草に心がけ、圃場衛生に努めましょう。
- 2) モザイク病の発病株は、早急に抜き取り、近くに放置せず、圃場外に持ち出して適切に処分してください。

表1 バレイショ 疫病の主な防除薬剤（平成 28 年 5 月 10 日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数
フォリオゴールド ※	500~1,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
プロポーズ顆粒水和剤 ※	750~1,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
カーゼートPZ水和剤 ※※	600~800 倍	収穫 7 日前まで / 4 回以内
ブリザード水和剤 ※	800~1,500 倍	収穫 7 日前まで / 4 回以内
ランマンフロアブル	1,000~2,000 倍	収穫 7 日前まで / 4 回以内
ペンコゼブ水和剤 ※※	400~600 倍	収穫 7 日前まで / 10 回以内
ダコニール1000 ※	500~1,000 倍	収穫 7 日前まで / 5 回以内
ザンプロDMフロアブル	1,000~1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内

注) 表中の※印がある薬剤は有効成分TPNを、※※は有効成分マンゼブを含みます。  
バレイショにおける総使用回数に十分注意してください。

表2 バレイショ アブラムシ類の主な防除薬剤（平成 28 年 5 月 10 日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数
コルト顆粒水和剤	4,000~8,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
スミチオン乳剤	1,000 倍	収穫 3 日前まで / 6 回以内
ダントツ水溶剤	4,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
ウララDF	2,000~4,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内
アディオオン乳剤	2,000~3,000 倍	収穫 14 日前まで / 4 回以内
チェス顆粒水和剤	5,000 倍	収穫 14 日前まで / 3 回以内

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040